

日本を滅ぼす 〈世間の良識〉

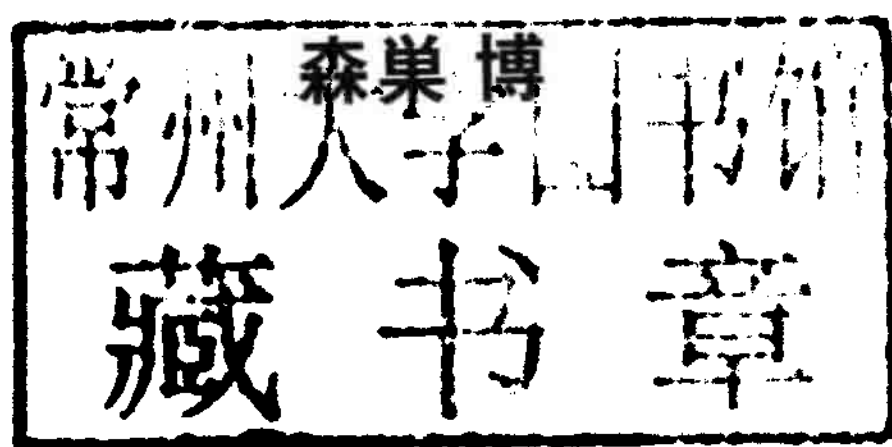
森 巢 博



講談社現代新書

2126

日本を滅ぼす〈世間の良識〉



講談社現代新書

2126

講談社現代新書 2126

日本を滅ぼす〈世間の良識〉

二〇一一年一〇月二〇日第一刷発行

著者 森巢博 © Hiroshi Morris 2011

発行者 鈴木哲

発行所 株式会社講談社

東京都文京区音羽二丁目二二二 郵便番号 一一二一八〇〇一

電話 出版部 〇三―五三九五―三五二一

販売部 〇三―五三九五―五八一七

業務部 〇三―五三九五―三六一五

装幀者 中島英樹

印刷所 大日本印刷株式会社

製本所 株式会社大進堂

定価はカバーに表示してあります Printed in Japan

本書のコピー、スキャン、デジタル化等の無断複製は著作権法上での例外を除き禁じられています。本書を代行業者等の第三者に依頼してスキャンやデジタル化することは、たとえ個人や家庭内の利用でも著作権法違反です。[R] 日本複写権センター委託出版物

複写を希望される場合は、日本複写権センター（〇三―三四〇一―二三八二）にご連絡ください。落丁本・乱丁本は購入書店名を明記のうえ、小社業務部あてにお送りください。送料小社負担にてお取り替えいたします。

なお、この本についてのお問い合わせは、現代新書出版部あてにお願いいたします。



目次

まえがき

3

第1章 この国は必ず沈没しますけど、なにか？

11

利潤の私益化・費用の社会化（1） 12

利潤の私益化・費用の社会化（2） 20

日本沈没あとバカ理論 29

論理が転倒した嫌な時代になりました 37

国民は国と心中するしかないのだから 46

第2章 大手メディアの正体見たり

55

自国メディアの不甲斐なさを、他国メディアによって知る 56

第3章

嗚呼、すばらしき世間の良識（笑）

沈黙は「金」、ただしこれは「カネ」と読む 63
こうやって国は滅びていくのだろうか 71

81

第4章

日本はホントに民主国家なのでしょうか？

125

のりピー報道ヒステリーについて考えてみた 82
再度のりピー・押尾事件について考えてみた 91
「新」と「怒」という漢字について、勝手に考えてみた 100
史上最強となりえた横綱を殺したのは、誰か？ 108
国技と文化的伝統を継承するために 117

神も歴史も畏れぬ不屈き者たち 126

任意とは、いったい誰の任意なのだろうか？（1） 134
任意とは、いったい誰の任意なのだろうか？（2） 142

いわゆる「北方領土」について、チューサン階級も考えた
憂国の情、抑えがたく
159 151

第5章

被曝上等、御意見無用

大本営原発部発表「大丈夫・心配ない・安全・ただちに健康に……」
安全基準値と規制値を大幅に引き上げたので、もう安心です
放射能みんなで浴びれば怖くない、って言われても、ちよつとねえええ……
まだ誰も、塀の内側でしゃがんでいない
胡桃の木と日本人は叩けば叩くほど収穫できる、のか？
170 178 187 196 204

あとがき

日本を滅ぼす〈世間の良識〉

森 巢 博

講談社現代新書

2126

まえがき

わたしの思い入れが強すぎるだけなのかもしれない。しかし大手メディアが、その責務をちゃんと果たしてさえいたなら、現在の日本の悲惨な状態はなかったのではなかろうか、とわたしは考える。

いや、もし日本が窮地に追い詰められていたとしても、現在の惨状よりかははるかにましなはずだ。

わたしはこれまで繰り返し、

「無知というのは知識がないことではない。疑問を発せられない状態を指す」とするフランク・ファノンの言葉を引用してきた。

日本の大手メディアが、問いを発する能力を備えていたら、本質に迫る質問ができていたら、すなわち「無知」でなかったら、と夢想するのは、「ないものねだり」なのだろうか。

本書のタイトルとして、『おとーちゃんばかりがお饅頭まんじゅうを食べる思想』というのを、わたしは編集部に提案した。

現代日本はその構造上、おとーちゃんたちばかりがお饅頭を食べられるようになっていく。この「おとーちゃんたち」には、少数派ながら「おかーちゃんたち」も含まれるのだが、「言葉のリズム」の問題として、本文中では便宜上「おとーちゃんたち」とさせていた。

そのおとーちゃんたちにぶら下がってさえいれば、「おすそ分け」にあずかれるだろう、とする大手メディアの責任と義務の放棄があり、現在日本の惨状の大部分が、生起し継承されてきた。本書の上梓に^{じょうし}当たり、チューサン階級（中学三年生程度の知識の持ち主の意味）に属するわたしがもった問題認識は、哀しいながらそういうものだった。

「新書向きのタイトルではない」

残念ながら、わたしの提案は、編集部によって即座に却下された。

じゃ、〈世間の良識〉だ。

基本的に「社会」は論理で成立すると考える。ところが多くの場合、「世間」は情動によって形成される。そしてその情動は、大手メディアの誘導によってできあがる場合がほとんどだ。

日本を離れ、四十年。

外側から眺めていると、日本で一般に言われるところの〈世間の良識〉というものが、

ひどく胡散臭く映る。その多くは、おとーちゃんたちがお饅頭を食べることを正当化させるためだけに存在しているのではなからうか。

そんな〈世間の良識〉を、生産し教化し宣伝し流通し消費させてきた大手メディアの責任は、厳しく問われなければならない。

*

——利潤の私益化・費用の社会化。

これこそ新自由主義思想のキモだ、とわたしは考えた。

それまで「社会資本」として国民の共有財産だったものが、「民営化」の掛け声で一部の人のためのみの私有とされる。鉄道にせよ電話回線にせよ、あれ、元はといえば税金でつくられたものなんです。

電力についても、ほとんど同じ論理が適用される。

電力の生産・頒布は独占となるよう、わざわざ法律（『電気事業法』）で定められた。電力会社は私企業にもかかわらず、「公益」法人としての特権を与えられている。日本を、そして世界を放射能まみれにしておいて、どこが「公益」なんだか、わたしにはよくわからないけれど。

当たり前前で申し訳ない。独占生産・独占頒布とは、他に供給者が不在することを意味する。どんなに高価な電力であつても、使用する側は涙を吞んで、それを買わざるをえない。

そこから生まれた膨大な利益は、株主たちに分配される。一方、その「公益」私企業が壊滅的な原発事故を起こしたならば、被害処理の経費のほとんどは、国民から徴収した税金で手当てされる。

つまり、「利潤の私益化・その利潤を出すために掛かる費用の社会化」の典型例ですね。

——俺（わたし）のものは俺（わたし）のもの。おまいのものも俺（わたし）のもの。やっぱり、おとーちゃんたちばかりが、お饅頭を食べていた。

その結果日本の人たちは、アメリカの放射性セシウム安全基準値の20000倍の水道水を飲まされる。現在日本の水道水暫定安全基準値は、諸外国の原子力発電所の排水（！）安全基準値を4〜5倍の単位で超えているそうです。

それだけではなく、日本国民は、一年三百六十五日高濃度の放射線に曝^{さら}され、汚染食品を喰わされ、年金が溶けていくのを、指をくわえながら眺めていなければならぬ。

*

だけど、

絆。

がんばろう、ニッポン！

日本はひとつ。

負けないニッポン。

欲しがりません、勝つまでは。

あゝあゝ、あの顔で、あゝのゝ声で。

遥かに仰いだ宮城きゆうじょうの空で、昼下がりの太陽が、放射能雲に滲んでいた。

被曝上等、御意見無用。

いざ来い、セシウム、ストロンチウム！

東海道も中山道も東北道も、今日は清々すがすがしいニッポン晴れです。

目次

まえがき

3

第1章 この国は必ず沈没しますけど、なにか？

11

利潤の私益化・費用の社会化（1） 12

利潤の私益化・費用の社会化（2） 20

日本沈没あとバカ理論 29

論理が転倒した嫌な時代になりました 37

国民は国と心中するしかないのだから 46

第2章 大手メディアの正体見たり

55

自国メディアの不甲斐なさを、他国メディアによって知る 56

第3章

嗚呼、すばらしき世間の良識（笑）

沈黙は「金」、ただしこれは「カネ」と読む 63
こうやって国は滅びていくのだろうか 71

第4章

日本はホントに民主国家なのでしょうか？

のりピー報道ヒステリーについて考えてみた 82
再度のりピー・押尾事件について考えてみた 91
「新」と「怒」という漢字について、勝手に考えてみた 100
史上最強となりえた横綱を殺したのは、誰か？ 108
国技と文化的伝統を継承するために 117

神も歴史も畏れぬ不屈き者たち 126

任意とは、いったい誰の任意なのだろうか？（1） 134
任意とは、いったい誰の任意なのだろうか？（2） 142

いわゆる「北方領土」について、チューサン階級も考えた
憂国の情、抑えがたく
159 151

第5章

被曝上等、御意見無用

大本営原発部発表「大丈夫・心配ない・安全・ただちに健康に……」
安全基準値と規制値を大幅に引き上げたので、もう安心です
放射能みんなで浴びれば怖くない、って言われても、ちよつとねえええ……
まだ誰も、塀の内側でしゃがんでいない
胡桃の木と日本人は叩けば叩くほど収穫できる、のか？
170 178 187 196 204

あとがき

第1章 この国は必ず沈没しますけど、なにか？